

就業者数は大幅増加も平均時給は減速

ポイント① 非農業部門就業者数、大幅に増加

6日発表の9月の米雇用統計では、非農業部門就業者数が前月比33.6万人増と8月（同22.7万人増）を大幅に上回ったことに加え、7月と8月の就業者数が計11.9万人上方修正されました。また、失業率は3.8%、労働参加率は62.8%とどちらも8月と同水準だった一方、平均時給は前年同月比+4.2%と8月（+4.3%）から減速したことから賃金上昇圧力が弱まっているとみられます。

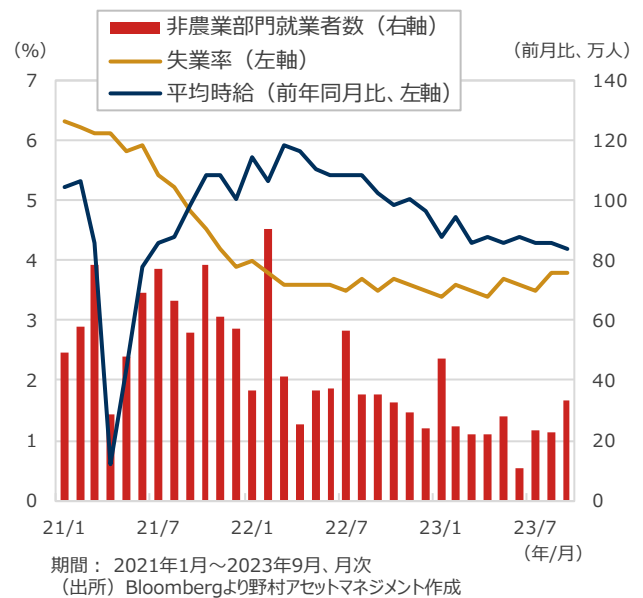
ポイント② 製造業景況感は3カ月連続改善

9月の米ISM景況感指数によると、製造業は49.0と好不況の分かれ目である50を11カ月連続で下回ったものの、3カ月連続で改善しました。昨秋までの米ドル高を背景に、製造業景況感は低迷していたものの、今年に入ってから米ドルの強さを表す米ドル指数の上昇率は低下傾向であり、製造業景況感の回復につながっているようです。一方、非製造業は53.6と50を上回りましたが、8月（54.5）から減速しました。特に新規受注は、超過貯蓄の切り崩し、学生ローン返済再開を背景にサービス支出の低下が見込まれたことで、51.8と8月（57.5）から大きく低下しました。

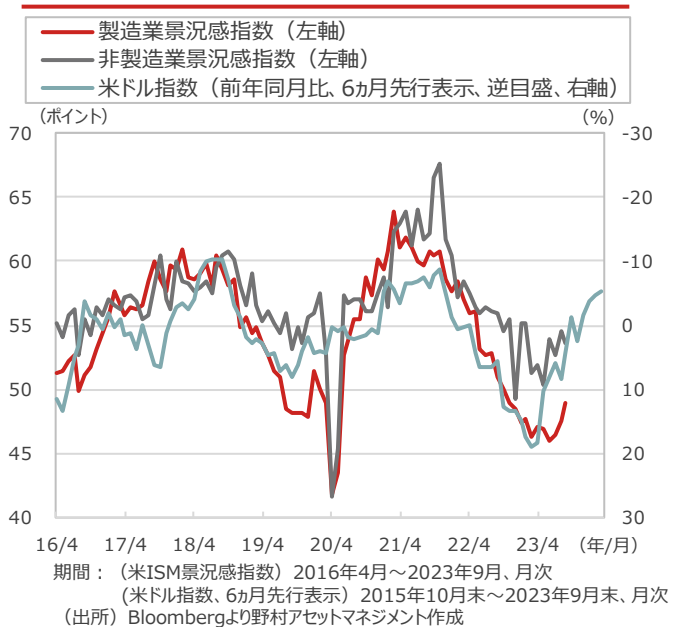
ポイント③ S&P500種株価指数は上昇

米雇用統計発表直後は、就業者数が市場予想を大きく超えて増加したことに反応し、米10年国債利回りが4.88%まで上昇（価格は下落）、その後、取引が始まったS&P500種株価指数は下落して始まりまし。但し、平均時給の伸び率減速などの統計内容全般からは大きなサプライズがなかったことで、米10年国債利回りの上昇が一服し、S&P500種株価指数は上昇に転じました。

米非農業部門就業者数と失業率と平均時給



米ISM（サプライマネジメント協会）
景況感指数と米ドル指数



重要 イベント	10月12日 米CPI（消費者物価指数）（9月）
	10月13日 米ミシガン大学消費者信頼感指数（10月）